

特集：ベリーサ

9

ベリーサのデザイン Design of VERISA

栗栖 邦彦*1

Kunihiko Kurisu

要 約

ベリーサは国内専用モデルとして、『上質なライフスタイルを演出してくれる、大人のコンパクトカー』を目指した。デミオとは全く違った、“シック、モダン、ハイクオリティ”をデザインの統一キーワードとしている。エクステリアは“クラスレスで上質なたたずまい”を、インテリアは“仕立ての良さ、端正さ、リラックスできる空間”を、カラーは“シックで味わいのあるラインナップ”をテーマとした。アテンザからアクセラで確立した、ダイナミックスポーツデザインから違う方向を目指すことで、新しい価値の創造を行った。具現化のためにカスタマーニーズの徹底検証とデジタルを駆使した品質の向上を行い、今後のデザイン開発の基盤造りと、マツダのチャレンジを期待させるデザインを完成させた。

Summary

Verisa aimed to be a genuine compact car earmarked for adults choreographing quality life-style as the exclusive car for the Japanese market. The slogan of Verisa's styling-design made an about-face from its predecessor Demio, namely “chic,” “modern,” and “high quality.” In order to embody the slogan, Verisa clung to “the beyond-the-class and quality exterior,” “the graceful and relaxant interior,” and “the chic and zestful color lineup.” Deviated from the dynamic sporty styling established for Atenza and Axela, Verisa stuck to the creation of new value, resulted in the completion of new styling evoking Mazda's future challenges. Thoroughly verifying consumer needs as well as improving quality with the use of virtual engineering, Verisa established the foundation of Mazda's future styling-design development.

1. はじめに

ベリーサはアテンザ以降取り組んできた商品群に対し、次世代の商品群の第一弾にあたる。更なる飛躍のために、すべてに挑戦する車と位置付けられた。デザイン開発もカスタマーニーズと形状が合っているかを、常に確認するプロセスをとった。また、積極的にデジタル技術の展開を行うことで、基本要件に対するデザインの早期確認、決定を短時間で行うことを実施した。高い目標を達成するため、早い段階での生産部門の参入等、一丸となって、上質感を感じさせる、今までにないコンパクトカーを実現させた。

2. デザインコンセプト

2.1 ターゲットカスタマー

デミオは若い女性をターゲットとし、カジュアル、若々しさをコンセプトとしている。リーズナブルな価格と走り、何でもできる使い勝手の良さで好評を得ている。ベリーサは、新規カスタマーの獲得を念頭に、“シック、モダン、ハイクオリティ”をデザインコンセプトとした。お互いにしっかりとした価値観を持った30代、子育てが終わった50代の夫婦に向け、その人たちが関心の高い機能を基本に、シンプルに使える、心地良い上質なデザインを目指した。

*1 デザイン戦略スタジオ
Design Strategic Studio

2.2 ポジショニング

ベリーサは欧州車のコンパクトカーが持つ大人のしっかりとした質感を狙い、今まで国産車が踏み込んでいなかったユニークなポジショニングとした (Fig.1)。

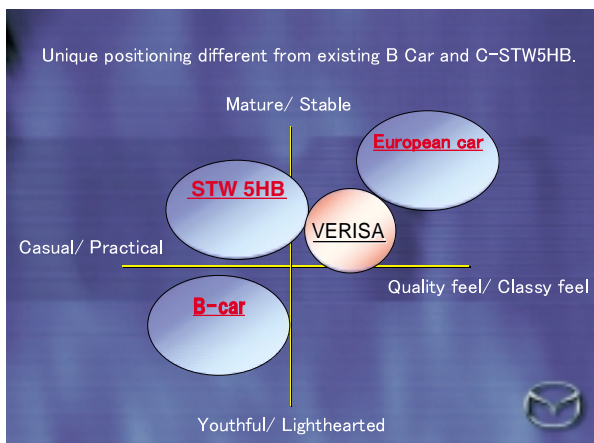


Fig.1 Design Positioning Map

2.3 デザイン要素

“シック、モダン、ハイクオリティ”をデザイン表現するために、あらゆるプロダクト製品を分析した。その中で同じデザインテーマを持っていると思われる製品 (Fig.2) の構成要素を抜き出し、以下の3点をベリーサのコンセプト実現の参考とした。

1. コントラスト (色や形に全く反対の要素を組み合わせ、お互いに緊張感を持たせること) をつけること
2. 面に張り感を与えること
3. デイテールは徹底的に造り込むこと



Fig.2 Design Image

3. エクステリアデザイン

3.1 クラスレスで上質なたたずまい

キャビンはサイドウインド周りを黒色とし、伸びやかな優雅さを実現するラウンドシェープとした。車の性格 (スポーティ等のイメージ) はDピラー (リヤコンビランプの上部のピラー) の形状で表せるが、ベリーサは、張りのある面と、柔らかいラインにより、上質感を表現した。

1,695mmの最大幅の規制に対し、サイドウインド下部に、豊かでしっかりとした塊感を感じさせる上向きの面を設けたことが、ベリーサの特徴となっている。上向きの面を前側ではヘッドランプへ、後ろ側はリヤコンビランプに収束させ、コンパクトカーを感じさせない凝縮感を出した。ボンネットとリヤゲートは特に面の張り感を出しモダンさを表現した。サイドの面はシンプルな面とし、ホイールアーチに折り返しをつけることで、ホイールアーチを寸法以上に強調し、安定感を出した (Fig.3)。

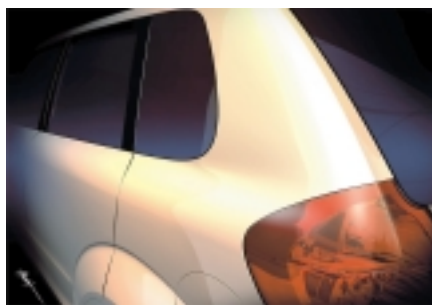


Fig.3 Body Design

3.2 デイテールの造り込み

(1) パンパデザイン

ボデー全体の下部には黒色を配し、下半身を引き締めた。パンパ下部の黒色部には、丸型のフォグランプを入れることで、ボデー色部をすっきりさせている。同様にリヤリフレクタは丸型とし、フロントとデザイン処理を合わせ、パンパのアクセントとした (Fig.4)。



Fig.4 Bumper Design

(2) ランプデザイン

ヘッドランプは縦方向に大型化し、Aピラーから前を短く見せている。構成は4燈式とした。円型のロービームとハイビームを横に並べ、グリルと連続感を持たせた横方向の柔らかいラインにより、表情豊かなフロント周りとした。ハウジングはメッキで構成し光輝感を出しているが、有機的な面とラインにより、複雑に映り込み、造り込んだ印象を与えている。ハイビーム外周は、ポジションランプの光源を使い、リフレクタ形状を工夫することで、リング状に発光させた。色も淡いブルーとすることで、爽やかな印象とした。リヤコンビランプもヘッドランプと同様に円形を2本の横ラインで挟む処理とし、前後に共通性を持たせている。

前後ランプは特にデジタル技術を駆使した。画面上でアイデアを展開し、反射面をリアリティのある形で再現することで、点灯時、非点灯時の確認の早期化が可能になり、車格を越えた完成度を出すことができた (Fig.5)



Fig.5 Lamp Design

(3) ホイールデザイン

ホイールは5本スポークをベースに、モダンかつホイールを大きく見せ、ポデーをしっかりと支えるデザインとした。更に、緩やかにセンター部に向かう曲線の断面にすることで、優雅さを出した。センター部にはメッキ化したブランドマークを配し、その外周にはダイヤモンドカットによる光輝面をリング状に出し、ベリーサ特有の上質感を出している (Fig.6)



Fig.6 15inches Alloy Wheel Design

(4) ドレスアップパッケージ

ベリーサのコンセプトをより強化するエクステリアのパッケージオプションを設定した。グリル下部、サイドドア黒色部、リヤライセンスプレート上部に細いメッキモールを配した。フロント、サイド、リヤをさりげなく引き立て、特に濃いポデー色の場合、メッキが映え、より上質に見せている。その他、フォグランプ外周にシルバーリングを、エキゾーストパイプにメッキガーニッシュを設定した。どの表現もさりげなさを持たせ、過剰表現にしていないところが、ポイントである (Fig.7)

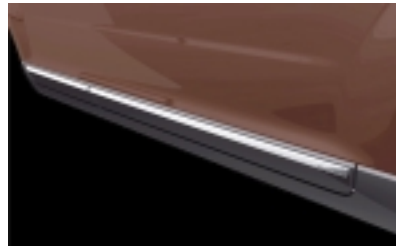


Fig.7 Dress Up Package

4. インテリアデザイン

4.1 仕立ての良さ、端正さ

(1) インstrumentパネル、コンソールデザイン

Instrumentパネル (以下インパネ) は、直線と円の組み合わせとし、端正でコントラストのきいた心地良い造型を基本とした。サイドルーバーダクトの下側には、ツイータスピーカを配した。高音がダイレクトに耳に届き、視覚的にもホームオーディオを連想させる特徴のあるものとした。インパネ上面は継ぎ目のない張りのあるパネルで

構成し、品質感を高めた。インパネ上部のナビゲーションシステムは収納式とし、視覚的に安全で見やすい位置に設定した。オーディオは2DINサイズ（汎用品サイズ）が入る別パネルも準備し、幅広いニーズに対応できるようにした。カップホルダの前側の物入れ部には、間接照明を配し、柔らかい光により、夜間のアクセントとなっている。ベリーのインパネ周りは機能がわかりやすく、シンプルに使いこなせることを基本とし、デザインした（Fig.8）。



Fig.8 Instrument Panel / Console Design

(2) シートデザイン

シートはインパネとデザインテーマを合わせ、直線と円弧を用いて、シンプルでモダンな形状とした。デザインの特徴であるシートバック上部の円弧は、背中へのホールド性を良くし、リヤシートからの圧迫感を軽減させることを意図している。また、上級車種のフレームを採用したシートバックや、厚みをしっかりとったクッションにより、長時間乗っても疲れにくいデザインとした。ステッチも仕立ての良さを感じさせるシングルステッチで、モダンな形状をより強調した。リヤシートは、背面にあるタグを引くだけでフラットになる構造とした。シンプルな構造にすることで、リヤシートクッションを厚くでき、座り心地に貢献している（Fig.9）。



Fig.9 Seat Design

(3) メータデザイン

メータの数字はシックで読みやすく、落ち着いた印象を与えるベリー専用字体とした。数字色は白色のLED照明でイグニッションオン時に黒色のベースからゆっくりと浮き上がる。大きさ、太さを照明の輝度と合わせ、目に負担のない形状とした。目盛りは、スピードが一目でわかるよう、数字を指す位置を強調した。グラデーションをかけた外周のブルーの帯はメータをより大きく見せ、奥行き感を感じさせる効果を狙った。白とブルーのコントラストにより、数字を更に浮き立たせ、外周のメッキリングにブルーが映りこむことにより、透明感と上質感を与えた（Fig.10）。



Fig.10 Meter Design

(4) メイクアップミラー

ある意味では、このアイテムがベリーのコンセプトを端的に表している。プッシュボタンを押し、ダンパでゆっくり水平に開くアッパーグローブボックス。蓋の裏には女性の意見を基に大きさを決定したミラーを設定した。ミラーは無段階で角度調整ができ、自然な姿勢で、車外からの視線をあまり気にすることなく化粧直し等ができる。蓋の物入れ部は口紅やポケットティッシュが仮置きでき、掃除がしやすい形状にした。ボックス部は400枚入りのティッシュボックスが入るサイズとし、ボックス内部にある照明は柔らかく顔を照らし、眩しくないようにレンズカットと色を調整した。上質感の表現として、蓋を閉めた時、カチッという節度感のある音とフィールまでこだわった（Fig.11）。



Fig.11 Make-up Mirror

4.2 リラックスできる空間

インテリアも、エクステリアと共通するラウンドシェープをテーマとした。黒色の中に明るい色を帯状に配し、横方向の広がりを強調した。また、帯状に廻した色を変える

ことにより、効果的にインテリアのイメージを変えられることを意図した。サイドガラスの角度を、デミオよりガラス上部で約20mm起こし、Aピラーも3°起こすことにより、ドライバからの斜め前方の開放感を持たせた。ベルトラインは上級車種から乗り換えても、不安感がない高さで厚み感を持たせた。ルーフ形状もフラットとし、フロント、リヤ乗員の頭上空間をしっかりと確保し、広々感とリラックスできる空間を狙った (Fig.12)。



Fig.12 Space Design

5. カラーデザイン

エクステリアとインテリアのカラーには、シックで味わいのあるラインナップを揃えた。

(1) エクステリアカラー

エクステリアのテーマカラーであるモイストシルバーマタリックは、モダンさと、今までにはない、味わい深い、温もりを出すことを狙った。高平滑、高輝度アルミを使用したシルバーマタリックと、ハイライトがゴールドに、そしてシェードはブルーに発色する特性を持った微粒子酸化チタンを使用することにより、実現することができた (Fig.13)。



Fig.13 Moist Silver Metallic

その他の8色も、他のコンパクトカーにはない、深みのあるシックな外板色を揃えた (Fig.14)。



Fig.14 Exterior Color Sample

(2) インテリアカラー

インテリアファニチャーなどで見られるオリーブを用いて、移動する時間を、心地良く和めるような空間表現にした。シート素材はワッフル調織物とすることで、立体感を出し、使う場所により、色々な表情と品質感を出すことを狙った。シートサイドとリヤ材は明るいオリーブとすることで、後部からみた時の広々感とモダンなシートを演出した (Fig.15)。



Fig.15 Fabric

(3) レザーパッケージ

エクステリアのドレスアップパッケージと同様に、コンセプトをより強化する目的で設定した。インパネに配した帯状の色をダークブルーとすることで、シックさをより強調した。シートは黒色のレザーとしたが、センター材は、滑り止めと通気性を考慮し、織物とした。シートセンター材の織物は、黒ベースに明るいブルーの縦糸を使い、緻密感を出した。レザー部のダブルステッチの糸は明るいブルーとし、センター材の縦糸とコーディネートさせている。木目は、ブルーとの相性を考慮して、深みのある赤茶とし、光沢も抑えて、高級感より上質感を目指した (Fig.16)。



Fig.16 Leather Package

6. おわりに

ベリーサは生産部門の強力なバックアップなくして成し得なかった。改めて、マツダの生産部門の力を感じた。ベリーサのデザイン開発では、プレス成形性等の要件を初期のスケッチ段階から打ち合わせていった。これほど生産部門と早い時期に一丸となって開発したことは、今までにない経験であった。デザイン開発では、色々困難な場面があり、後工程に迷惑をかけることも多々あったが、開発完了後の確認車（本型により組み立てられた車）は、狙いどおりのデザインが非常に高い品質で具現化されており、ベリーサ以降のデザイン開発、更には車造りに大きな自信になったと確信する。

著者



栗栖邦彦